農業気象 (J. Agr. Met.) 49 (1): 41-47, 1993

1992(平成4)年の日本の天候の特徴

北 村 修

(気象庁観測部産業気象課)

Japanese Weather Highlight in 1992

Osamu KITAMURA

(Japan Meteorological Agency, Ote-machi, Tokyo 100, Japan)

1. はじめに

1992年の天候の特徴は次の通りであった。

- ① 大暖冬で少雪。東・西日本は6年連続、北日本は4年連続の暖冬となった。首都圏では6年ぶりの大雪。
 - ② 春は曇雨天の日が多く、ナタネ梅雨や走り梅雨が顕著。強い寒気が南下し各地でひょうが降った。
 - ③ 梅雨は顕著。寒気が南下し東・西日本を中心に低温。日本海側を中心に少雨。
 - ④ 梅雨明け後の猛暑。8月上旬に全国的な強い低温。
 - ⑤ 東日本は残暑で少雨。北・西日本は低温・寡照。8月に台風が3個あいついで西日本に上陸。
 - ⑥ 秋雨不活発で少雨・北海道は多雨。台風の上陸はなし。東日本は10月になって遅い秋雨。
 - ⑦ 12月は高温・多雨・寡照。
- 気温や降水量が大きく変動したが、農作物の生育に一般的な大きな影響はなかった。

2. 高温・寡照の年

表1・表2・表3に1992年の地域別にみた気温偏差・降水量平年比・日照時間平年比を示す。北日本とは北海道・東北地方、東日本とは関東・中部(三重県を含む)地方、西日本とは近畿(三重県を除く)・中国・四国・九州地方、南西諸島とは奄美・沖縄地方を示す。

また、表中に階級区分のかなりを太字で示しているが、階級区分は次のようにきめている。資料年数が30年の場合、小さい値から大きい値に並べた総個数を小さい値から3個(10%)、6個(20%)、12個(40%)、6個(20%)、3個(10%)の群に分け、この群をかなり低(少)い、

1993年3月2日 受領

表1 1992年の地域平均気温偏差(℃)

地域 期間	北日本	東日本	西日本	南西諸島
1月	1.7	1.8	1.9	0.8
2月	1.4	1.0	0.7	-0.4
3月	1.1	1.7	1.7	2.1
4月	0.3	0.8	0.7	0.3
5月	-1.0	-1.3	-0.4	-0.6
6月	-0.4	-0.7	-1.0	-0.5
7月	0.5	0.2	-0.4	-0.3
8月	-0.6	-0.1	-0.4	0.3
9月	-0.9	0.1	0.4	0.1
10月	0.4	0.2	0.3	-0.3
11月	0.5	0.5	0.3	-0.3
12月	0.9	1.3	1.5	1.1
年	0.3	0.4	0.4	0.2
冬	1.2	1.4	1.5	0.5
春	0.1	0.4	0.6	0.6
夏	-0.2	-0.2	-0.6	-0.2
秋	0.0	0.3	0.3	-0.1

表2 1992年の地域平均降水量平年比(%)

	北日本	東日本	西日本	南西諸島
1月	64	88	96	153
2月	76	68	72	175
3月	75	156	204	194
4月	100	128	90	120
5月	122	113	77	84
6月	81	91	81	130
7月	104	58	58	57
8月	89	73	167	135
9月	137	50	52	77
10月	84	154	68	70
11月	85	103	77	65
12月	114	137	180	102
年	97	96	93	111

表3 1992年の地域平均日照時間平年比(%)

	北日本	東日本	西日本	南西諸島
1月	87	102	91	101
2月	99	115	108	95
3月	94	69	57	70
4月	82	109	112	77
5月	90	90	106	86
6月	95	101	108	78
7月	96	112	97	104
8月	85	94	70	91
9月	95	131	111	94
10月	98	93	108	93
11月	100	105	97	103
12月	87	93	98	102
年	92	100	96	92

やや低(少)い、平年並、やや高(多)い、かなり高(多)いという。

年平均気温は北～西日本は平年より0.3～0.4℃高く、やや高かった。南西諸島も0.2℃高かったが平年並であった。

年平均気温が平年より高い状態は北～西日本は1989年から4年続いている。1990年をピークに下り傾向だがまだ平年を上まわっている。南西諸島では1987年から6年連続して平年を上まわっている。

図1に地域平均気温偏差の5日移動平均を示す。寒候期は暖かかったが、暖候期はしばしば強い低温が入る時期があり低温傾向であった。夏(6～8月)平均気温が平年以下となったのは1989年以来である。また南西諸島も含め全地域が平年以下となったのは1982年以来である。

年降水量は、北～西日本は97～93%で平年並、南西

図1 地域平均気温偏差の5日移動平均

(気候監視報告, 気象庁による)

表4 月平均気温, 月降水量, 日照時間が観測開始以来の記録を更新した地域

(数字は気象官署数)

	高 温	低 温	多 雨	少 雨	多 照	寡 照
1月				東北 1		北海道 1
2月			東北 1	関東・九州 3		
3月	関東以西 22		北海道 29	北海道 4		東海以西 32
4月	関東 2		関東 1			北海道・東北 4
5月		近畿・中国 3		九州 3	九州 1	東北・近畿 2
6月		近畿以西 6				
7月			北海道 1	沖縄 1		
8月			中国 1	関東 1		中国・九州 4
9月		北海道 3	北海道 4	東北・北陸 10	関東・東海 2	北海道 4
10月				南西諸島 2		
11月						
12月	近畿 1		近畿・九州 2			東北 2
合 計	25	12	39	25	3	49

諸島は111%でやや多かった。しかし、月により地域により変動が大きく、1月の北日本、7月・9月の東・西日本でかなり少なく、2月の南西諸島、3月の東日本～南西諸島、8月の西日本、9月の北日本、12月の西日本でかなり多かった。

年間日照時間を見ると東日本は平年並であったが、西日本でやや少なく、北日本や南西諸島はかなり少なかった。月別にみると3月、8月、12月の寡照が目立った。

表4は月平均気温、月降水量、月間日照時間記録を更新した気象官署数とその地域を示す。また、図2はこれ

図2 月平均気温(上段)・月降水量(中段)・月間日照時間(下段)は5位までの記録を更新した気象官署数

上向きは高(多)い・下向きは低(少)い官署数

らについて5位までの順位を更新した気象官署数を示す。黒塗りは1位の記録を、陰影は2位または3位の記録を、白ぬきは4位または5位の記録を更新した気象官署数を示す。

観測開始以来の記録の更新した官署数の合計をみると、高温・多雨・寡照の記録が多く、その大半は3月に関東以西で出現した。また少雨の記録も目立つが9月に北陸・東北地方で多く出現した。

5位までの記録の更新した官署数をみると、1月・3月・4月・12月は高温、5～9月は低温の記録を更新した気象官署が多かった。月降水量についてみると、各月とも多雨や少雨の記録の更新があり、降水量の分布が地域によるかたよりが大きかったことが示されているが、3月の多雨、9月の少雨の記録の更新した気象官署数が目立っている。月間日照時間では3月・8月に寡照、9月に多照の記録を更新した気象官署が多かった。

3. 季節の特徴

冬：大暖冬・日本海側少雪・首都圏の大雪

冬(12～2月)平均気温は全国高温(北～西日本はかなり高く、南西諸島は平年並)で、東・西日本は6年連続、北日本は4年連続の暖冬となった。冬の降水量は、北日本でかなり少なく、東日本はやや少なく、西日本は平年並、南西諸島はやや多かった。

北日本は12月前半に強い寒気が入ったが、その後は高温に経過した。東・西日本は20日程度の周期で低温の時期があったが、低温は長続きしなかった。特に、東京・大阪の冬日(日最低気温が0℃未満の日)は1日しかなく、福岡では冬日はなかった。

積雪も少なく、日本海側の最深積雪は平年の半分程度であり、特に金沢では18 cm(平年68 cm)、福井では20 cm(平年76 cm)で記録的に少なかった。

1月31日から2月1日にかけ低気圧が猛烈に発達しながら南海上を北東に進み全国的に大荒の天気となった。この低気圧の通過にともない、関東から東北南部は大雪となり、東京の積雪は17 cmで6年ぶりの大雪となった。強風や大雪にともない各地に大きな農業被害があった。

沖縄では1月下旬半ばから低気圧や前線の影響を受け曇りや雨の日が多くなり、2月の降水量がかなり多くなった。

春：曇雨天が続く・前半高温後半低温・ひょう害

春(3～5月)平均気温は、北・東日本は平年並、西日本・南西諸島はやや高かった。しかし寒暖の変動が大きく、3月は記録的に高温となったが、4月中旬・5月上旬・5月下旬に強い寒気が南下した。このため5月は全国低温となり、東日本はかなり低かった。春の降水量は

東日本でかなり多く、西日本・南西諸島でやや多く、北日本は並であった。日照時間は北日本でかなり少なく、その他の地域でやや少なかった。

日本の南海上に前線が停滞したため、関東・九州および南西諸島は3月初めから、その他の地方は3月半ばから曇りや雨(雪)の日が続いた。このため3月は記録的な多雨・寡照となった。一方、北海道は移動性高気圧の影響を受け記録的な少雨となった。このような天候は4月上旬まで続いた。4月中旬以降は移動性の高気圧におおわれ、東・西日本は晴れる日が多くなった。一方、北日本は低気圧が頻繁に通る曇りや雨の日が多くなった。

4月中旬は強い寒気が南下し、全国的に低温となり、各地でひょうが降り、大きな農業被害があった。北日本と関東・北陸では曇りや雨の日が多く、東海以西は晴れの日が多かった。4月下旬は東・西日本は晴れの日が多く、北日本は曇りや雨の日が多かった。南西諸島は梅雨の走りとなった。

4月の平均気温は東・西日本はやや高く、その他の地域は平年並、降水量は東日本・南西諸島でやや多く、西日本でやや少なかった。日照時間は北日本でかなり少なく、南西諸島はやや少なく、東・西日本はやや多かった。

5月上旬には北・東日本を中心に寒気が入り、北・東日本を中心に曇りや雨の日が多かった。5月中旬は東・西日本では梅雨の走りとなり曇りや雨の日が多かった。北海道は晴れる日が多かった。5月20日から強い寒気が南下し全国的に低温となった。北・東日本は曇りや雨の日が多かった。寒気の南下にともない大気が不安定となり連日のように雷雨やひょうが降り農作物に大きな被害があった。このような大気的不安定をもたらした寒気が日本東方海上に抜けるのに10日もかかった。

5月の平均気温は全国的に低く(東日本はかなり低い、その他の地域はやや低い)、降水量は北・東日本でやや多く、その他の地域は平年並、日照時間は北・東日本でやや少なく、その他の地域は平年並であった。

梅雨期：梅雨寒む・沖縄や日本海側で少雨

表5に各地域の梅雨の状況を示す。沖縄・奄美は5月8日に早く入梅した。その他の地域も6月上旬に平年並～早い入梅となった。沖縄・奄美は6月下旬・7月上旬に遅い出梅、その他の地域は7月中旬～下旬に平年並～遅い出梅となった。関東甲信や北陸の出梅は西日本より早かった。梅雨量は名瀬・鹿児島で多く、那覇・福岡・高松・広島で少なく、その他は平年並だった。

表5 1992年の梅雨

地 域	入 梅 日		出 梅 日		梅 雨 量		
	月・日	平年差	月・日	平年差	地 点	雨量mm	平年比%
沖 縄	5. 8	－3	6. 26	＋3	那 覇	329.5	68
奄 美	5. 8	－3	7. 9	＋11	名 瀬	1031.5	150
九州南部	6. 5	＋3	7. 20	＋7	鹿児島	955.5	150
九州北部	6. 5	－3	7. 20	＋2	福 岡	254.5	56
四 国	6. 7	＋1	7. 21	＋5	高 松	198.0	74
中 国	6. 7	－1	7. 21	＋2	広 島	283.5	58
近 畿	6. 7	－1	7. 21	＋2	大 阪	247.0	74
東 海	6. 7	－2	7. 19	＋1	名古屋	287.0	79
関東甲信	6. 7	－2	7. 19	－1	東 京	248.5	130
北 陸	6. 7	－5	7. 19	－3	新 潟	199.0	74
東北南部	6. 8	－4	7. 24	＋1	仙 台	238.0	97
東北北部	6. 8	－6	7. 29	＋3	青 森	125.0	78

(注) 平年差で－は平年より早い、＋は平年より遅いことを示す。

本州で入梅したあと、梅雨前線が明瞭となり、オホーツク海高気圧もしばしば現れ典型的な梅雨となった。北日本は5月下旬からの低温と日照不足が続いた。6月下旬を中心に強い寒気が入り、東・西日本はかなり低温となり、西日本の太平洋側を中心に曇りや雨の日が多くなった。北日本は晴れる日が多くなった。

6月の平均気温は西日本でかなり低く、東日本・南西諸島はやや低く、北日本は平年並であった。降水量は北・西日本でやや少なく、東日本は平年並、南西諸島は多かった。日照時間は南西諸島でやや少なく、その他の地域は平年並であった。

7月上旬には梅雨前線が南岸から離れて停滞することが多く、前線から遠い北日本や日本海側では晴れの日が多く、前線近い西日本の太平洋側や奄美地方では曇りや雨の日が多かった。7月中旬には梅雨前線が本州付近に停滞し、全国的に低温となった。東・西日本では曇りや雨の日が多かった。中旬末に太平洋高気圧が強まり、九州から北陸まではほぼ一斉に梅雨が明けた。

梅雨期間中は局地的な大雨は降ったが大規模な災害はなく、激甚災害指定がなかったのは8年ぶりであった。

7月の平均気温は南西諸島でやや低かったが、その他の地域は平年並、降水量は東・西日本でかなり少なく、南西諸島はやや少なく、北日本は平年並、日照時間は東日本でやや多く、その他の地域は平年並であった。

盛夏期：8月初めの低温・北・西日本は曇雨天

梅雨明け後、東・西日本は太平洋高気圧におおわれ猛暑となった。北日本は曇りや雨の日が多かったが気温は平年並であった。8月初めオホーツク海高気圧の影響で全国的に低温となり天気がぐずついた。その後東日本の天気は回復し残暑で少雨となった。しかし、西日本は台風の後相次ぐ上陸や低気圧等の影響で九州を中心に低温・多雨・寡照となった。北日本も低気圧や前線の影響で曇り

や雨の日が多かった。下旬には全国的に高温となった。

8月の平均気温は、北日本でやや低く、東・西日本は平年並、南西諸島はやや高く、降水量は西日本でかなり多く、南西諸島はやや多く、北日本は平年並、東日本はやや少なかった。日照時間は西日本でかなり少なく、北日本・南西諸島でやや少なく、東日本は平年並だった。

秋：秋雨不活発 東日本遅い秋雨 台風の上陸はなし

秋（9～11月）平均気温は東日本でやや高く、その他の地域は平年並であった。降水量は北・東日本は平年並、西日本・南西諸島はかなり少なく、日照時間は西日本でかなり多く、東日本やや多く、北日本・南西諸島は平年並であった。

9月初めは残暑が厳しかった。その後北日本を中心に寒気が入り、北海道では記録的な低温・多雨・寡照となった。北日本などの初冠雪は平年より10～20日早く観測された。一方、東・西日本は秋雨前線の活動が不活発で台風の上陸もなかったため晴れる日が多く、著しい少雨・多照となった。東京では8月13日から9月14日までの33日間、長野県佐久では8月14日から9月18日までの36日間雨が降らず水不足が心配された。

10月上・中旬には東日本で秋雨模様の天候となり、曇りや雨の日が多かった。西日本は移動性高気圧におおわれ晴天の日が多く、北日本も中旬には晴れる日が多かった。10月下旬には東日本の秋雨も終わり、東・西日本の太平洋側では晴天の日が多かった。

11月は冬型の気圧配置となっても続かなかった。太平洋高気圧が強まり、南海上の前線が北上し、東・西日本の太平洋側や南西諸島では上旬後半から中旬にかけて曇りや雨の日が多かった。

初冬：高温 西日本多雨

日本付近を低気圧が通ることが多く、冬型の気圧配置となっても続かなかった。上旬は低気圧の影響で全国的に曇りや雨の日が多く、東・西日本の太平洋側では顕著な高温・多雨・寡照となった。中旬は時々冬型の気圧配

置となった。太平洋側で晴天、日本海側では雪または雨の天候となった。旬平均の気温は平年並であった。下旬は冬型の気圧配置は続かず、西日本を中心に暖かな日が多かった。

12月の平均気温は西日本でかなり高く、その他の地域ではやや高かった。降水量は西日本でかなり多く、北・東日本はやや多く、南西諸島は平年並。日照時間は北日本でかなり少なく、東日本はやや少なく、西日本・南西諸島は平年並であった。

4. 台 風

表6に台風の発生数・上陸数・接近数を示す。1992年の台風の発生数は31個で平年（27.8個）より多く、8～10月に集中して発生した。本土への接近数は5個で平年並であったが、この内3個は8月に相次いで西日本に上陸した。秋に台風の上陸がなかったのは6年ぶりで、接近した台風も1個だけであった。主な台風（図3）は次の通りである。

台風第3号：6月24日フィリピン東方海上で台風となり、28～29日沖縄近海を中型で強い勢力で通過し、30日夜から7月1日未明にかけて中型で並の勢力で房総半島をかすめ、その後福島県沖で温帯低気圧となった。この台風とともに一部地域で農業被害があった。

台風第9号：8月2日南大東島の南海上で台風となり、4日昼すぎに小型で弱い勢力で足摺岬近付に上陸し、夕方には九州に再上陸し、その後弱い熱帯低気圧となった。この台風により西日本で5億円以上の農業被害があった。

台風第10号：8月4日グアム島の西で台風となり、7日夕方前に中型で非常に強い勢力で奄美大島を通過し、8日朝に中型で強い勢力で熊本県に上陸、その後山口県を通り、9日正午に秋田県沖で温帯低気圧となりその後北日本を通過した。台風と温帯低気圧により各地に甚大な被害を及ぼし、激甚災害に指定された。農業被害も632億円以上となった。

表6 1992年の台風の発生数、上陸数、本土および南西諸島への接近数

（上段は平年値、下段は1992年）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年
発生数	0.6 1	0.2 1	0.4	0.7	1.1	1.9 2	4.2 4	5.5 8	5.2 5	4.0 7	2.7 3	1.2	27.8 31
上陸数					0.0	0.1	0.4	1.2 3	0.8	0.2	0.0		2.8 3
本土への 接近数					0.1	0.4 1	1.0 1	2.1 3	1.2 1	0.7	0.1		5.3 5*
南西諸島への 接近数				0.1	0.4	0.7 1	1.6	2.4 3	1.5 2	0.7	0.5	0.0	7.5 7

（注）＊印は2つの月にまたがり接近した台風があることを示す。

台風第 11 号：8 月 6 日 マーシャル諸島海域で台風となり、15 日に中型で強い勢力で父島付近を通過し、18 日夕方すぎに中型で弱い勢力で宮崎・大分県境付近に上陸した。その後山口県を通り、19 日に山口県沖で弱い熱帯低気圧となった。この台風により西日本で 9 億円以上の農業被害があった。

台風第 15 号：8 月 26 日 グアム島の南東海上で台風となり、9 月 2 日から 4 日にかけて大型で強い勢力で沖縄の南海上を西北西に進んだ。この台風により沖縄で農業被害があった。

台風第 16 号：8 月 28 日 沖縄の南海上で台風となり、28 日から 30 日にかけて大型で並の勢力で沖縄の南海上に北西に進んだ。この台風により南西諸島で農業被害があった。

台風第 17 号：9 月 2 日 マリアナ近海で台風となり、10 日から 11 日にかけて日本の東方海上を北上した。この台風により北日本でおよそ 100 億円の農業被害があった。

台風第 19 号：9 月 19 日 フィリピン東方海上で台風となり、その後台湾・中国沿岸・黄海・朝鮮半島を経て 24 日日本海で温帯低気圧となった。温帯低気圧に変わった後に急速に再発達し北海道を通過した。この台風や温帯低気圧により南西諸島や西・北日本などで 24 億円以上の農業被害があった。

台風第 28 号：10 月 30 日 カロリン諸島海域で台風となり、11 月 6 日から 7

図 3 1992 年の主な台風の経路
(数字は台風番号、黒点は台風の 9 時の位置)

表 7 主な生物季節現象

	ウメ開花		サクラ開花		サルスベリ開花		カエデ紅葉	
	月・日	平年差	月・日	平年差	月・日	平年差	月・日	平年差
札幌	5. 3	-3	5. 4	-1	—	—	10. 22	+4
仙台	1. 31	-32	4. 6	-8	8. 12	+1	11. 11	-1
東京	1. 11	-22	3. 24	-5	7. 22	+5	11. 26	-2
大阪	1. 24	-20	3. 26	-6	7. 28	—	12. 1	—
福岡	1. 24	-12	3. 22	-6	8. 7	+11	11. 24	+13
那覇	—	—	1. 26	+10	7. 4	+12	—	—

表 8 1992 年の気象災害(農業被害 10 億円以上の災害だけ)

月/日	気 象 災 害 例	被害地域	山崖崩	堤防決壊	耕地流失・埋没	耕地冠水	農業被害
1/31～2/2	ひょう 強風 積雪 着雪 雪圧 凍結 雪崩 山崖崩	九州～東北	ヶ所 5	ヶ所	ha	ha	万円 262,622
4/12～16	ひょう 強風 落雷	九州～関東・北海道					117,521
5/20～30	ひょう 落雷 強風 竜巻 浸水	九州～北海道					657,549
6/27～7/1	強風 塩風 (台風第 3 号)	沖縄・鹿児島・東京					343,313
8/ 6～10	強風 山崖崩 浸水 強風 落雷 土石流 洪水 塩風 浸水 竜巻 湛水 (台風第 10 号)	全国	150	39	101	4,701	6,320,458
8/17～20	強風 山崖崩 強雨 浸水 洪水 湛水 (台風第 11 号)	九州～東海甲信	57	3	1		156,855
9/ 4	落雷 ひょう 強風 浸水 強雨	関東・東北					146,449
9/ 9～12	強風 浸水 強雨 山崖崩 洪水 (台風第 17 号)	東北・北海道	225		397	24,152	999,726
9/20～27	強風 竜巻 洪水 浸水 山崖崩 強雨 (台風第 19 号)	全国(関東・東海を除く)	14			7,566	247,788

異常気象および気象災害一覧表(気象庁ニュース)から

日にかけて日本の南海上を通過した。この台風や前線により西日本や関東で3億円の農業被害があった。

5. 生物季節観測

ウメ・ツバキの開花など早春の現象は平年より20～30日早く観測され、15地点で最早を記録した。タンポポ・サクラの開花、ヒバリ・ウグイスの初鳴も早かった。

ヤマツツジ・ノダフジの開花は平年並となり春の歩みはペースダウンした。

アジサイの開花、ホタル初見は平年並であった。盛夏の現象のサルスベリの開花は遅く12地点で最晩を記録した。アブラゼミの初鳴は平年並だが東北ではかなり遅い所もあった。

ススキの開花は平年並だった。カエデの紅葉や落葉は6年連続して遅くなった。

6. 農業被害

表8は農業被害が10億円以上の災害について農業に

関連した事項をぬき出したものである。

大きな凍霜害が起らず、農作物に影響をあたえる風水害も比較的少ない年であった。一方、ひょう害は多く、表に示していないが、7月9日で北海道、9月4日に関東でひょうが降り農作物に被害があった。このほか、関東以西で菜種梅雨により麦などに被害があり、また北海道では8～9月の低温・日照不足・多雨で水稻の作柄指数が著しい不良になるなどの被害があった。

7. おわりに

1991年は農業被害が記録的に多かった年であったので1992年はどうかと心配された。幸いにして、気温や降水量・日照時間の変動が大きかったが全般にわたる大きな農業被害は少なかった。

1993年の冬も7年連続の暖冬となった。今後の天候の経過に注目していきたい。